

次代を つくる



京都大学国際融合
創造センター教授
澤田芳郎さん

大学教員と言えば、どんな職業人像が浮かんでくるでしょうか。筆者の知る教員たちは、まず講義を通して基本的考え方や最新情報を若い世代に伝え、官僚と交渉して研究費を調達し、他人の論文を読んでそれと異なる理屈を考え、実験や調査を組み、資料やデータを分析し、論文を書き、学会やメーリングリストで世界中のライバルと議論する。そして志を同じくする学生

たちとこれらに取り組んで、ともに力をつける日々を送っています。思考の核心は「なぜ」という疑問。好奇心を手がかりにする点で趣味的要素もあります

大学教員と産学連携

が、それなしでは開えず、新しい発見もできません。しかしその教員にも、産学連携に関心をもつ人々が増えてきました。第1は自分本来の研究のほかに直接

社会に役立つ研究もしたいと思うタイプ、第2は産学連携でアクセスできる現場にこそ解くべき最先端の問題があると考えるタイプです。前者は年長層に、後者は人々です。その中でも特にアクティブな層が「大学発ベンチャー」を志向します。高度知識社会の到来のもと、科学者は各自の研究が何の役に立つかわれなくなり、そうでなくてもどのような意味があるかわからなくなることが要請されています。産学連携の動きには、いわばそれを逆手にとり、現代社会における科学のあり方について一つの形を与えていくという面があります。

さわだ・よしろう 1954年大阪府生まれ。京都大学農学部卒、教育学研究科修士課程修了。未来工学研究所研究員、京都大学助手、愛知教育大学助教授、教授を経て、01年京都大学国際融合創造センター教授。

題字は堀場雅夫・堀場製作所最高顧問